

# 活動報告書

報告者氏名: 坂口卓哉 所属: 京都市立東総合支援学校 記録日: 2014年 2月 27日

## 【対象児(群)の情報】

- ・学年 高等部2年
- ・障害名 自閉症 知的障害
  - ・障害と困難の内容

好きな活動には、前向きに楽しんで取り組み、積極性もある。そうでない活動においても納得してがんばっているが、自分からというよりは指示を受けての活動になりがちである。また時おり、嫌がって落ち着きをなくすこともある。スケジュールを理解することでスムーズに動ける場面も多い。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい

漢字の学習などは、漢検に合格するという本人の目的があり、毎日自発的に取り組むことができている。様々な活動においても、このように意欲と目的を持って自発的に活動に取り組めるようになることをねらいとする。スケジュールを理解して行動することができるのでタスク系のアプリを軸とし、本人が行動を整理して考えられるようにする。タスクをクリアすることにポイントが加点されると共に指導者から評価を得られ、達成感が得られるようにすることで意欲と目的を持って活動できることをねらいとする。

学校生活において好きな活動だったり、上記の漢字のように意欲をもっている活動だったり自ら好んでする活動がある反面、特に好きでも嫌いでもない、あるいは好まない活動は誰にでも発生しうる。指導者に指示を受けたのでやる、やることに決まっているのでやるということも起こりうる。そのような場合、まず活動内容を見直して本人が意欲を持てるようにすることが大事であるが、同時に1日を通して、活動への目的意識を持てるようにし、即時的に達成感を感じられるようにするための別のアプローチとして今回、タスク系アプリによるスケジュール管理に取り組むものとする。

- ・実施期間 2013年6月～2014年3月
- ・実施者 坂口卓哉
- ・実施者と対象児の関係 魔法のランププロジェクト対象生徒と担当

## 【活動内容と対象児(群)の変化】

### ・対象児(群)の事前の状況

1日のスケジュールは朝の会で確認することで大まかには入っているが、何時何分に始まるといったことまでは入っていないので担任の指示で動いていた。漢字の学習や造形活動のように自分の中で目的意識を持ち、自分から取り組んでいる活動もある。そうでない活動においては、指示を受けて動いている。

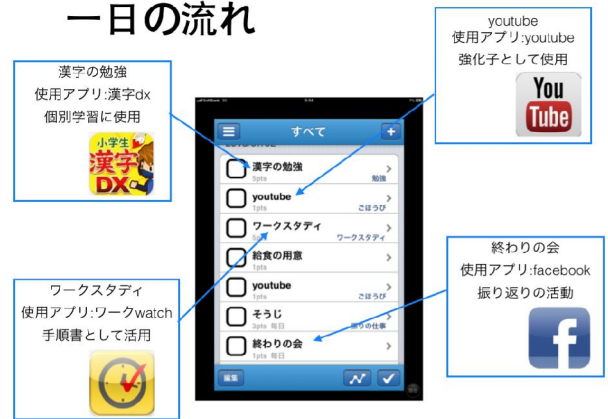
### ・活動の具体的内容

タスク系アプリ「LvUP」を使い自らスケジュール管理を行うと共に学習への目的意識と意欲を高めることに取り組んでいる。

#### ※アプリの特徴

- ①一般的なタスク管理アプリ同様、設定した一日のタスクが時系列に沿って表示される。時系列順に表示されるのでいわゆるスケジュール表代わりになる。タスクに「毎週実行する」という設定をすることで、曜日単位で同じタスクを自動的に設定することができるので、学校の時間割とも相性が良い。また時間割が変更になった場合の編集も容易なので急な変更にも対処して速やかに生徒にスケジュールを提示できる。
- ②タスク実行の時間になったらアラームがなるように設定できる。指導者が指示をしなくてもスケジュールを見て活動に取りかけられる。
- ③タスクごとにポイントを設定することができ、タスクが達成されるごとにポイントが加算されるようになっている。ポイントが一定量たまるとゲームのように使用者のレベルがあがるという設定で、ゲーム感覚で楽しみながらタスクの処理ができる。
- ④各々のタスクにはコメント欄があり、ここに条件を記入することで、そのタスクにおける具体的な目標を設定することができる。たとえば「漢字のプリントを3枚やったら5ポイント」といった条件にするなど、といったように単純に「したのか」、「していないのか」というだけではなく、「どのように」「どれだけ」といった条件付けをすることができる。これはアプリ上の仕様ではないが、タスクが終わることに指導者と確認作業を行うことで、その都度、具体的目標に対してどうであったかという評価をすることが可能となる。
- ⑤iPadでスケジュール管理をするため、他の学習系のアプリ(漢字演習アプリなど)にシームレスに移行ができる。つまりスケジュールと教材が一本化できる(全てのスケジュールにおいて、ではない)。iPadのホーム画面に活動に使用するアプリのみ設定することで、時間になれば画面に示されたアプリの活動に速やかに取り組み始めることができる。指導者の指示も極力減らせる

### 一日の流れ



### 使用アプリ: **Lv up**

#### 1番の特徴は...

各タスクにはポイントを  
設定できます

ポイントは生徒と  
相談して割り振りました



まず、最初に時間割表を手掛かりに生徒と共に1週間分のスケジュール作成を行う。各タスク(活動)に振り分けるポイントも生徒と相談して設定する。(漢字の活動は5ポイント、そうじは3ポイントといった具合)登校時にiPadを起動してその日のスケジュールを確認し、活動に取りかかる。指導者とスケジュールを確認し、一つ一つのタスク(活動)に設定された具体的な目標もその都度、確認する。活動を終わったら指導者と具体的な目標に対してどうだったか確認し、アプリを操作してポイントを加算する。同時に指導者からも前向きに活動を振り返られるような評価を行う。目標は無理のないものにし、達成感を味わえるものとする。このようにして一つ一つの活動ごとに目標の確認と評価が行えるようにし、その達成の積み重ねがタスクの処理とポイントの加算という形で実感できるようにする。

#### ・対象児(群)の事後の変化

投稿すると担当者のところに来て iPad を受け取ることが定着した。自分で「Lvup」を起動し、スケジュールの確認を行っている。1日のスケジュールは「LvUP」を見ることで指示がなくても確認して動いている。自分のやるべきことがわかり、安定して活動に取り組むことができている。アラーム機能も設定しているので時間通りに行動できている。この間、指導者からの指示は減り、本人の「○○へ行くよ」などの言葉に対して確認の言葉がけをするようになった。スケジュールと漢字等の個別学習用のアプリが同じ iPad 上にあるためシームレスで移行でき、学習の切り替えがスムーズにできた

タスクを処理することにポイントが加算され、レベルが上がることは単純に喜んでいる。「振り返り」のシートを作り、その日の活動と獲得したポイントを確認するようにしたところ、がんばれたことを自ら「今日は○○をがんばった」と発言し、シートに書き込むようになった。ポイントを意識しており、担当の顔を見ると「がんばるよ」と声をかけてくる。プレッシャーとも取れるが意欲にはつながっている。振り返りに関しては facebook の使用も行った。その日の活動を振り返り、facebook 上にアップするという形を取った。アップされた記事に関して担当者からコメントを寄せて評価を行ったが、web 上のやり取りをするよりも、記入した振り返りシートを前に直接話をしやり取りした方が本人からの言葉が多く出たので facebook の使用から振り返りシートの使用に切り替えた。

#### 【報告者の気づきとエビデンス】

##### ・主観的気づき

電子化をすることにより曜日単位でスケジュールが自動で更新されたり、急な変更の際でも速やかに編集してわかりやすく活動を提示できたりするなどの利点が多く、支援者側にとっても使いやすいツールであった。また活動の具体的な内容に記したアプリの特徴から生徒本人にとってはスケジュールの自己管理、意欲の向上につながるものであった

##### ・エビデンス(具体的数値など)

1年間を通した毎日の活動全体に関わる取り組みなのでエビデンスとなる数値については12月の2週目にサンプル抽出したものを示した。

・時間になるとアラームが鳴るので指導者が指示をしなくてもスケジュールを見て活動に取りかかれた。例えば12月の2週目(12/9~13)における活動項目は全部で39項目であったが、この週は行事を除く38項目においてアラームと画面に表示された「Lvup」のタスクを見て次の活動の準備をするなり、活動場所へ移動するなりといった行動に取り掛かれた。指導者はその行動を見て確認の言葉がけを行った。

・ポイントを獲得するために、「漢字アプリを5題やる」といった目的を意識して活動した。ポイント獲得条件は12月の2週目(12/9~13)においては全てのタスクにおいて100%の達成率となった。

##### ・その他エピソード(画像などを含めて)

毎日、担当者から iPad を受け取りにくることになっているが、受け取りの際のやり取りも担任の指導により少しずつ礼儀正しいものに変化していった。「iPad 貸してください」といきなり言うのではなく、ドアをノックし、指導者の名前を呼んで、あいさつをしてから用件を切り出す、といった一連のソーシャルスキルを身につけることができた。

ICT 担当特別非常勤講師による学習会を以下の日程で実施した

7/30 総合育成支援教育公開講座・・・地域の各校・園を対象

10/8 PTA 学習会・・・本校保護者を対象、家庭と学校の連携をはかるのを主旨に実施

10/19 福祉機器展・・・地域の福祉関係者及び保護者を対象

内容

- ・タブレット端末の紹介
- ・iPad の特性、基本機能について
- ・操作練習
- ・用途別アプリの紹介
- ・周辺機器の紹介